

令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	平井知行「在る……在る？」展
日にち	令和6年4月26日(金) ～5月12日(日)
会場	ギャラリー330（鳥取市）
実施者(団体)	平井 知行 氏
補助金額	159千円

地元鳥取をはじめ、東京やニューヨークなどでの個展の開催、アートフェアへの出品など、国内外で精力的に作品発表を行っている平井知行氏による個展。平井氏は34歳頃から絵画制作を始め、より根源的なテーマに目を向けながら独自の表現の追及を行っており、会場には心の内面をテーマにした2～100号までの抽象画作品が56点展示された。

作品を観賞した来場者からは、「強力なパワーをもらった」「別世界に入り込んだよう」などといった感想があった。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	4.3 Art Project～逆走して歴史と出会う～プレゼンテーション大阪編
日にち	令和6年5月25日(土)
会場	大阪コリアタウン歴史資料館(大阪府)
実施者(団体)	4.3 Art Project 実行委員会
補助金額	300千円

令和7年から令和9年にかけて実施を計画している、日本と済州島4.3事件との関係をテーマとしたアートプロジェクトのプレ事業として、企画への理解や賛同を深めるために、在日コリアン(済州島出身者)が多く住む大阪市生野区で、関西圏を中心とした在日の方や美術関係者に向けたプレゼンテーションを実施した。

会場では、プロジェクトで実際に使うボトルメッセージやテキスト、作品模型やイメージドローイングを展示するとともに、関連の写真やテキストをプロジェクターで投影しながら概要を説明し、その後、参加者とのディスカッションを行った。

プロジェクトに対してどのような理解、反応があるかを把握し、企画の構想をより具体的に考察、具現化していくことにつなげるとともに、在日コリアン関係者や済州島在住の研究者、美術関係者等との交流を通じ、一緒にプロジェクトを進めていく協力者との出会いや関係性を深める機会となった。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	牟禮朱美写真展「さなぎの中はだれも知らない」
日にち	令和6年9月13日(金)から26日(木)
会場	ソニーイメージングギャラリー銀座(東京都)
実施者(団体)	牟禮 朱美 氏
補助金額	300千円

境港市在住の写真家・牟禮朱美氏による19年ぶりの東京での個展。作品は、鳥取県内の10代の学生を被写体として撮影されたもので、ラベリングされた青春像ではなく、彼らを「観察すること」から生まれた思春期の姿を作品群として展示した。

展示会場は写真作品 28 点のほか、映像や立体の展示物を交えながら、物語を読んだかのような世界観に浸れるストーリーテリングの手法で演出され、鑑賞者からは、「思春期の少女とかつての自分との重ね方が、伝統的な制服とマッチして、タイムスリップしているようで不思議な写真。」「写真に収められたそれぞれの背景に想像の翼を広げたいような作品展だった」などの声があった。

会期中には、現地の在住者だけでなく米子から訪れたファンや美術界の関係者などが訪れ、約 4,500 人が個展を観賞した。また、本個展に合わせ、初のオリジナル写真集も制作された。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	劇団星のふる町 演劇公演「セロ弾きのゴーシュ」
日時	令和6年10月13日(日) 開演 19:00(通常上演) 14日(月・祝) 開演 11:00(おやこ向け上演)/15:00(字幕付き上演)
会場	倉吉交流プラザ視聴覚ホール
実施者(団体)	劇団星のふる町
補助金額	110 千円

劇団星のふる町は、鳥取県の中部地区を中心に、音楽劇や朗読劇などの公演活動を行っている団体であり、今回の公演では初めての自主公演として、演劇作品の上演を行った。

本公演では、劇中音楽を県内の作曲家に依頼し、オリジナルの楽曲を制作したほか、「インクルーブルシアター」の考えに基づき、年齢・障がいの有無にかかわらず楽しめる演劇公演を行うことを目的に、公演は回ごとに「通常公演」「おやこ向け公演」「字幕付き上演」とし、おやこ向け公演では、上演前に演劇鑑賞時のマナー説明や、親子連れに配慮した会場の雰囲気づくりを行うなど、創造性・独自性のある取り組みを行った。

当日は、県内外から200名の来場があった。来場者の多数は、これまでに劇団星のふる町の作品を観たことのない方であったが、アンケートでは公演内容では「とても良かった」「良かった」との回答が8割近くを占めるとともに、「久しぶりに演劇を見て、表情や音の響き方とか面白くて、見入った」、「親子でみられて、とてもいい体験だった。またいろんな演劇をみてみたい」といった感想があった。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	「一隅の世界」山本 恵三展
日にち	令和6年10月16日(水)～10月20日(日)
会場	とりぎん文化会館 展示室（鳥取市）
実施者(団体)	山本恵三展実行委員会
補助金額	300千円

国内有数の美術団体である「独立美術協会」会員でもあり、戦後から現在に至るまで郷土の画壇を担ってきた画家の一人である、山本恵三氏の作品展。県内ではこれまで展示されたことのない、独立美術展へ出品された大作の数々を中心に、60年にわたる画業の中で描かれた代表作約60点が一堂に展示された。

会場では制作年順に作品が展示され、1960年代の抽象から90年代以降の白い半裸婦シリーズなど、時代とともに変化していった作風とともに、一貫して追求されてきた「実在感」の探求の軌跡が感じられる展覧会となった。

5日間にわたる会期中には、県内外から1,300人が来場し、作品を鑑賞した。アンケートでは「全部の作品に見ごたえがあり、すごいエネルギーを感じた」「作品の数々に、先生の描かれる姿が浮かび感動した」などといった声が鑑賞者から寄せられた。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	宗廣 真澄&長尾 洋史 ピアノデュオコンサート
日にち	令和6年10月31日(木)
会場	米子コンベンションセンター 小ホール（米子市）
実施者(団体)	一般社団法人全日本ピアノ指導者協会山陰中部支部
補助金額	129千円

国内外でソロのほか管・弦楽器奏者との共演も多い長尾洋史氏と、倉吉在住で、近年は弦楽器との室内楽を中心に演奏活動を行っている、宗廣真澄氏の2人によるピアノデュオ(連弾)コンサート。

演奏曲は、子どもから音楽愛好家の大人まで、多くの人を楽しめるよう、小作品が集まった組曲を中心としたプログラムで構成された。また、長尾氏と宗廣氏の息の合った連弾演奏により、ソロでは味わえない楽しさや迫力、スケールの大きさが表現された、芸術性の高いアンサンブルが実現した。

来場者には、連弾演奏を初めて聴いたという方々も多かったが、今回の公演を通じてその楽しさを知れた、自分も演奏してみたいという声もあり、広く子どもたちやピアノ学習者へピアノデュオ(連弾)に関心をもってもらふ契機となる事業となった。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	(公社)日本バレエ協会山陰支部 バレエコンサート
日時	令和6年12月15日(日) 午後1時30分開演
会場	とりぎん文化会館 梨花ホール
実施者(団体)	(公社)日本バレエ協会山陰支部
補助金額	476千円

バレエ文化の普及、及び人材育成を目的とし、(公社)日本バレエ協会山陰支部による初めての試みとして、山陰両県合同によるバレエコンサートを開催した。本公演には、同団体が行っている山陰バレエコンクールの上位入賞者や、山陰両県でバレエを学ぶ子どもたち、海外留学中の県内出身の高校生、地元でバレエ文化の振興や若手ダンサーの育成を行っている指導者や振付家など、総勢110名が参加者した。また、コンクール入賞者によるエキシビションのほか、各地域の指導者・振付師が一丸となって構成した古典やコンテンポラリーなどの多様な作品が上演された。

来場者からは、「演出もよく、とても感動した。初めてバレエを鑑賞したが、また鑑賞したいと思った。」「ラジオ体操からインスピレーションを得た作品が馴染み深く、今まで見てきたコンテンポラリーダンスの中で、初めて意味が分かる作品だった」などの感想があり、山陰両県のバレエ活動を多くの人に知ってもらい、その魅力を伝える機会となった。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	高木東六顕彰事業 高木東六生誕120周年 朗読とピアノ・歌でつづる「高木東六パリ留学日記」
日時	令和6年9月1日(日) 午後2時開演
会場	米子市公会堂 大ホール
実施者(団体)	高木東六顕彰事業実行委員会
補助金額	500千円

米子市出身の作曲家、高木東六が生誕120周年を迎えることを記念して実施された顕彰事業。高木東六のパリ留学時代の日記に焦点を当て、地元音楽家や研究者、高木東六とゆかりのある関係者によるコラボレーションにより、「旧・米子市の歌」、「水色のワルツ」、「春のシャンソン」などの高木東六作品の演奏と解説、トークが行われた。また、俳優・高橋克典氏(VTR 出演)による日記の朗読もあり、パリ五輪の開催と重なる年に、パリと高木というタイムリーなテーマで全国に発信することができた。

当日はあいにく台風通過直後と重なり、交通機関の乱れ等で、県外や遠方からの集客に影響が出たが、517人の来場者があった。来場者からは、「朗読や演奏はもちろん全体の構成も良く、これまで語られることの少なかった高木東六の人間性を知る良い機会となった」という声が多く寄せられ、高木氏の功績や作品、人物像などを改めて多くの方々に広める事業となった。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	「中井金三と砂丘社の仲間たち」出版事業
日にち	令和6年6月～11月
実施者(団体)	波田野 頌二郎
補助金額	300千円

倉吉市出身で明治から大正・昭和にかけて活躍した、画家・教育者の中井金三については、これまでその来歴や評伝、功績が一冊にまとめられたものが残されていなかったことから、県立美術館の開館に合わせ、中井金三が中心となって結成した芸術団体・砂丘社の文化運動とあわせ、その功績をまとめた書籍を出版した。

本書では、教え子である画家・前田寛治や義弟であった詩人・河本緑石との関わりや、かつての教え子や砂丘社のメンバーの記録をもとにした、中井金三の生前のエピソードの数々が記されており、優秀な画家であるとともに、情熱を持った教育者として公私にわたり教え子を支え、多くの人に敬愛された生前の中井金三の姿がありありと綴られている。

また、中井金三と砂丘社の活動が、明治から現代にいたるまでどのように継承されたのか、倉吉の市民の文化運動や県立美術館開館に至るまでの町の文化の水脈が記されている。

読者からは、「中井金三の歩んできた道と、その功績の大きさを改めて知った」、「砂丘社による芸術文化運動が社会に及ぼした影響の大きさや、現在の町の気風となっていることに驚く」との感想があった。

〔刊行物の概要〕

タイトル:「中井金三と砂丘社の仲間たち〈不思議の町倉吉〉100年の旅から未来へ」

仕様:四六版、310 ページ

発行部数:400 部

発行日:令和 6 年 10 月 20 日

令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	日本初の女性弁護士中田正子氏及び明治大学創立者岸本辰雄氏顕彰事業
日にち	令和6年8月23日(金)～25日(日)
会場	鳥取県立倉吉未来中心 小ホール、アトリウム
実施者(団体)	明治大学校友会鳥取県支部
補助金額	500 千円

鳥取県で活躍した「日本初の女性弁護士」中田正子氏(元鳥取県弁護士会長)と、明治大学の創立者である岸本辰雄氏(鳥取市出身)を顕彰するため、講演会とパネル展示を実施した。

講演会では、中田正子氏が日本初の女性弁護士になる道のりや、時代を切り拓き、鳥取県で活躍した後に生涯を閉じた話などが語られた。また、パネル展示では中田正子氏と岸本辰雄氏が活躍した当時の写真や業績を紹介するとともに、研究者によるパネル解説を行った。

講演会には150人、パネル展には1,350人の来場者が集まり、「男女共同参画、女性躍進に繋がる内容で参考になった」「鳥取県で活躍された中田弁護士について知る機会になった」といった感想があった。本事業と同時期に放映されていたNHK朝の連続ドラマ「虎に翼」の影響もあり、中田正子氏の功績は地元マスコミ各社でもたびたび紹介され、県内外へ広く発信された。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	第17 回全国公募書道展「放哉を書く」
日時	令和6年11月 14日(木)～17日(日)
会場	とりぎん文化会館 展示室、ギャラリー集、宝林堂ギャラリー（鳥取市）
実施者(団体)	放哉の会
補助金額	450千円

全国公募書道展「放哉を書く」は、鳥取市出身の自由律俳人・尾崎放哉の業績の顕彰及び全国発信を行うため、放哉の句を題材とした作品を公募している書道展である。第17回目の開催となる今回は、一般の部、高校の部、色紙の部に224点の応募があり、このうち県外からは、北は北海道から南は熊本県まで全国各地から104点の作品が応募された。

鳥取市内3会場で開催された作品展には、入賞・入選作をはじめ審査員の作品など計230点が展示された。会期中には、712人の鑑賞者が会場を訪れ、放哉の句と書の魅力を味わった。

放哉大賞(鳥取県知事賞)には、一般の部は風岡将平さん(静岡県)の「闘牛の装なりぬ梅赤し」、高校の部は西村爽花さん(鳥取東高)の「傘にばりばり雨音さして逢ひに来た」がそれぞれ選ばれた。応募者からは、「放哉の句を表現することを通して、自分について考える機会を持ちました。」「放哉の句を題材に作品を書くことが度々ありますが、そのたびに面白さを感じています。」などの声があった。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【周年支援事業】

事業名	創作「因伯と」の会 第15回作品展
日にち	令和6年11月6日(水)～12日(火)
会場	旧牧田家住宅 倉吉淀屋
実施者(団体)	創作「因伯と」の会
補助金額	60千円

創作「因伯との会」は、平成22年の発足以後、日頃の創作活動の中で他分野の作家との交流を通して、さらなる研鑽を深めるとともに、県域の作家の広域交流と情報発信を行っている。第15回目となる本作品展では、洋画・彫刻・木工・陶芸・竹灯籠・写真・工作分野の9名の作家による作品を一堂に展示した。

会場である倉吉淀屋は、市重要文化財でもあり、多様な分野の作品がワンストップで楽しめることに加え、観賞者からは、歴史的文化財と作品の調和を楽しめたと好評であった。7日間の会期中には、悪天候の影響もあったものの、約300名が会場に訪れ、作品の鑑賞を楽しんだ。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【周年支援事業】

事業名	第20回記念鳥取書道女流選抜展
日にち	令和6年12月6日(金)～8日(日)
会場	とりぎん文化会館 展示室（鳥取市）
実施者(団体)	鳥取書道女流選抜展実行委員会
補助金額	100千円

鳥取書道女流選抜展は、鳥取書道連盟所属の女流書道家により毎年開催されている作品展である。第20回目を迎えた本展では、各作家による漢字、かな、漢字かな交り文など、ジャンルや会派に縛られない多彩な書作品に加え、源氏物語による「平安の美」をテーマとした大型の合同作品が展示された。また、鳥取市と姉妹都市である清州(チョンジュ)市女流作家の作品が特別展示された。

会場には3日間で600人が来場し、「今年は20回記念展でいつもより見ごたえがあり楽しく鑑賞した。」「合同作品は迫力がありとても良かった。」などの声が寄せられた。

また会期中には、出品作家による席上揮毫が行われ、会場に集まった多くの来場者が、普段見ることのできない作品の制作過程を鑑賞し、その楽しさや緊張感を味わった。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【映像作品活用支援事業】

事業名	羽原大介氏、足立紳氏「関金映画上映会」
日時	令和6年8月24日(土) 午前10時30分開演
会場	関金都市交流センター 交流ホール
実施者(団体)	特定非営利活動法人未来
補助金額	100千円

NHK朝の連続テレビ小説「ちむどんどん」や映画「フラガール」など人気作を手がけた倉吉市出身の脚本家・羽原大介氏及び、同じく同市出身で NHK 朝の連続テレビ小説「ブギウギ」を手がけた脚本家・足立紳氏の映像作品の上映会を実施した。

全国放送ドラマで老若男女問わず多くのファンを得ている羽原氏・足立氏が手掛けた映像作品を観賞しようと、会場には10代から70代以上の幅広い年齢層が集まるとともに、県内各地、県外からの来場者もあった。上演後に行ったアンケートでは、「今回の上映会を通じて、鳥取県の映像作品や文化芸術に興味を持ちましたか」「今後倉吉市もしくは鳥取県内で映画上映会があれば参加したいですか」という質問に対し、全員が「興味を持った」「また参加したい」と回答するなど、鳥取県の映像文化の盛り上げにつながる事業となった。

【上映作品】

「フラガール」 脚本:羽原大介 氏 (第30回日本アカデミー賞 最優秀脚本賞 受賞)

「倉吉ふるさとムービーありがとう」 脚本・監督: 羽原大介 氏

「喜劇 愛妻物語」 脚本・監督:足立紳 氏 (第32回東京国際映画祭 最優秀脚本賞 受賞)

